

INFORMATION RELEASE

ミサワホーム株式会社 〒163-0833 東京都新宿区西新宿 2-4-1 Tel.03(3349)8088 (広報直通)

2018年6月27日

ミサワホームグループの社員が

第60次日本南極地域観測隊に参加

- 越冬隊に1名が選任、参加隊員数は累計16名に
- ミサワホームグループからは11期連続で観測隊に参加
- 2015年より工事を開始した「基本観測棟※」がいよいよ完成

ミサワホームグループの社員である小山悟（こやまさとる）が、第60次日本南極地域観測隊員に選任されました。大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立極地研究所（以下、極地研究所）の所員として、11月下旬に南極昭和基地に向けて出発します。今回の選任によりミサワホームグループからの日本南極地域観測隊への参加隊員数は累計16名、第50次から11期連続の参加となります。

南極地域観測は、南極条約に基づき、国際協力のもと国が実施する事業の一つです。日本の活動拠点となる南極昭和基地では超高層物理学、気象学、雪氷学、生物学、地学など幅広い分野で研究活動が続けられており、昨年1月には基地開設60周年を迎えました。観測隊は、夏季の3ヶ月間滞在する夏隊と一年超にわたり滞在する越冬隊があり、それぞれ研究観測や定常観測などを担当する「観測系」隊員と基地の設備や生活の維持を担当する「設営系」隊員で構成されています。限られた人数で基地運営をする必要があるため、隊員はいずれも各分野の専門家であることが求められます。

このたび設営系の越冬隊員として同観測隊に参加する小山は、2015年にミサワホームが受注し、建設を進めている「基本観測棟」の内部仕上げを担当し、完成を目指すほか、既存建物のメンテナンスも実施します。

同観測隊は11月下旬に日本を出発し、オーストラリアのフリーマントルで南極観測船「しらせ」に乗船後、昭和基地に向かいます。このたび選任された小山は、現在活動中の第59次越冬隊から業務を引き継いで活動し、2020年春に帰国予定です。現在、ミサワホームグループからは佐藤啓之（さとうひろゆき）が第59次越冬隊員として参加しているため、今年12月下旬から来年2月中旬まで、ミサワホームグループの社員2名が昭和基地にて共同で活動することになります。

ミサワホームは、今後も専門技術を有する社員の派遣等を通じて南極観測活動に協力していきます。今回観測隊員に選ばれた小山には、ミサワホームグループの代表として、また南極地域観測におけるナショナルチームの一員としての誇りを持って無事に任務を遂行してくれることを期待しています。

※：現在の気象棟・地学棟・電離層棟・環境科学棟を統合した観測棟

■ 隊員プロフィール

○小山 悟 (こやま さとる)

1993年4月、秋田ミサワホーム株式会社(現 東北ミサワホーム株式会社)に入社。工事主任・現場管理者として長く住宅の施工に従事しています。お客様相談室やデザイン室での勤務経験や、東日本大震災発生時には岩手県内の応急仮設住宅の建設にも携わりました。

■ 南極とミサワホーム

ミサワホームは1968年の「第10居住棟」以降、日本南極地域観測隊の活動や生活を支える建物を受注し、その実績は累計36棟、延床面積約5,900㎡になります。建物に採用されている木質接着複合パネルは、徹底した品質管理体制の下、外装、断熱材、内装があらかじめ艱装され、南極昭和基地での夏場の限られた建設期間で、建築経験のない隊員でも短工期で施工でき、厳しい南極の気候に耐え続ける性能が特長です。過酷な環境下で培われてきた技術やノウハウは日本でもいかされており、居住棟に用いられているものと同じ120mmの厚さの木質接着複合パネルを採用した新構法「センチュリーモノコック」を昨年4月に開発、販売しました。

建物の受注に加え、南極の観測活動に貢献すべく、専門技術を有する社員が極地研究所へ出向し、設営系隊員として協力しています。昭和基地のシンボリック建物となっている「管理棟」や「第1・第2居住棟」、大型建築物「自然エネルギー棟」などは、ミサワホームグループから参加した隊員が中心となり、専門分野の異なる隊員同士が協力して建設しました。

建物受注や隊員派遣のほかにも、南極や観測隊の活動をより多くの方々に伝え身近に感じてもらうためのインターネットコンテンツ「南極の歩き方^{※1}」をミサワホームのWebサイト内に開設。観測活動の内容をはじめ、南極の自然現象や未踏の地を切り開いた南極探検家など、南極に関する幅広い情報を紹介しています。

また、全国の学校生活協同組合や教育関連団体と連携し、極地研究所の協力を得て、南極地域観測隊に参加した社員らが講師となり、小・中学校を中心に授業を実施する教育支援プログラム「南極クラス^{※2}」を2011年から開催しています。生徒には、遙か遠くの南極の世界を身近に感じてもらうとともに、将来の夢や希望を持つこと、お互いに支えあいミッションを達成していくチームワークの大切さなどを伝えていきます。昨年度までに、延べ1,211校で13万人以上を対象に開催しており、今年度も全国で実施中です。

他にも、「国立極地研究所南極・北極科学館(東京都立川市)^{※3}」や「名古屋市科学館(愛知県名古屋市)^{※4}」において、南極昭和基地の居住棟のカットモデルを出展協力するなど、南極の観測活動の普及・啓発に協力しています。

※1 南極の歩き方：<http://www.misawa.co.jp/nankyoku/>

※2 南極クラス：<http://www.eco.misawa.co.jp/antarctic-class/>

※3 国立極地研究所南極・北極科学館：<http://www.nipr.ac.jp/science-museum/>

※4 名古屋市科学館：<http://www.ncsm.city.nagoya.jp/>

以 上

この件に関する問い合わせ先

ミサワホーム(株) 経営企画部 コーポレートコミュニケーション課 奥本博之 大倉海人

TEL:03-3349-8088/FAX:03-5381-7838

E-mail:Kaito_Okura@home.misawa.co.jp